

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「竹取物語 ～ふじの山～」問題

中将、人々^①引きぐして^②帰りまゐりて、かぐや姫を、え^③戦ひ止め^{アズ}^④なりイぬる事、

こまごまと^⑤奏す。薬の壺に御文^⑥そへ、^⑦参らす。^⑧ひろげて^⑨御覽じて、

いといたく^⑩あはれがら^ウせ給ひて、物も^⑪聞こしめさ^エず。御遊びなどもなかり^オけり。

大臣、上達部を^⑫召して、「いづれの山か天に近き」と^⑬問は^カせ給ふに、^⑭ある人^⑮奏す。

「駿河の国に^⑯ある^キなる山なん、この都も近く、天も近く^⑰侍る」と^⑱奏す。

これを^⑲聞か^クせ給ひて、

逢ふ^⑳ことも涙に^㉑うかぶ我身には^㉒死な^ケぬくすりも何にかは^㉓せ^コむ

かの^㉔奉る不死の薬壺に文^㉕具して、御使ひに^㉖たまはす。勅使には、

調石笠と^㉗言ふ人を^㉘召して、駿河の国に^㉙あ^サなる山の頂に^㉚持てつくシべきよし^㉛仰せ給ふ。御文、不死の薬の壺^㉛ならべて、
嶺にて^㉟すべきやう^㉟教へ^セさせ給ふ。御文、不死の薬の壺^㉛ならべて、

火を^㉕つけて^㉖燃やすべきよし^㉛仰せ給ふ。そのよし^㉘承りて、

つはものどもあまた^㉙具して山へ^㉚登りタ^ケるよりなん、その山をふじの山とは^㉛名づけ^チける。

その煙いまだ雲のなかへ^㉚立ち上るとぞ^㉛言ひ伝へ^ツたる。

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「竹取物語 ふじの山」 解答

中将、人々^①引きぐして^②帰りまゐりて、かぐや姫を、え^③戦ひ止め^{アズ}^④なりイぬる事、
こまごまと^⑤奏す。薬の壺に御文^⑥そへ、^⑦参らす。^⑧ひろげて^⑨御覽じて、
サ変^終 | サ変^用 | ラ四^用 | ハ下二^用 | サ下二^終 | ガ下二^用 | サ変^用 | マ下二^用 | 打消 ラ四^用 | 完了
いといたく^⑩あはれがら^ウせ給ひて、物も^⑪聞こしめさ^エず。御遊びなどもなかりオけり。
ラ四^用 | 尊敬 | サ四^用 | ラ変^体 | 伝聞 | ハ四^用 | ラ変^体 | ハ四^用 | ラ変^体 | ラ四^用 | 過去
大臣、上達部を^⑫召して、「いづれの山か天に近き」と^⑬問は^カせ給ふに、^⑭ある人^⑮奏す。
サ四^用 | 尊敬 | ハ四^用 | ラ変^体 | 伝聞 | ハ四^用 | ラ変^体 | ハ四^用 | ラ変^体 | ラ四^用 | 過去
「駿河の国に^⑯あるキなる山なん、この都も近く、天も近く^⑰侍る」と^⑱奏す。
ハ四^用 | 尊敬 | ハ四^用 | ラ変^体 | 伝聞 | ハ四^用 | ラ変^体 | ハ四^用 | ラ変^体 | ラ四^用 | 過去
これを^⑯聞か^クせ給ひて、
サ四^用 | 尊敬 | ハ四^用 | ラ変^体 | 伝聞 | ハ四^用 | ラ変^体 | ハ四^用 | ラ変^体 | ラ四^用 | 過去
かの^⑲奉る不死の薬壺に文^⑳具して、御使ひに^㉑たまはす。勅使には、
ハ四^用 | ラ四^用 | サ四^用 | ラ変^体 | 伝聞 | ハ四^用 | ラ変^体 | ハ四^用 | ラ変^体 | ラ四^用 | 過去
逢ふことも涙に^㉒うかぶ我身には^㉓死な^ケぬくすりも何にかは^㉔せ^コむ。
ハ四^用 | ラ四^用 | サ四^用 | ラ変^体 | 伝聞 | ハ四^用 | ラ変^体 | ハ四^用 | ラ変^体 | ラ四^用 | 過去
嶺にて^㉕す^スべきやう^㉖教へ^セさせ給ふ。御文、不死の薬の壺^㉗ならべて、
サ変^終 | 当然 | ハ下二^用 | サ変^終 | 命令 | バ下二^用 | ラ四^用 | ハ下二^用 | サ下二^用 | ハ下二^用 | 命令
調石笠と^㉘言ふ人を^㉙召して、駿河の国に^㉚あ^サなる山の頂に^㉛持てつくシべきよし^㉜仰せ給ふ。
ハ四^用 | サ四^用 | ラ変^体 | 伝聞 | ハ四^用 | ラ変^体 | ハ四^用 | ラ変^体 | ハ下二^用 | サ下二^用 | 命令
火を^㉖つけて^㉗燃やす^㉘べきよし^㉙仰せ給ふ。そのよし^㉚承りて、
カ下二^用 | サ変^用 | ラ四^用 | ハ下二^用 | サ下二^用 | ラ四^用 | 過去
つはものどもあまた^㉛具して山へ^㉜登り^タけるよりなん、その山をふじの山とは^㉝名づけ^チける。
カ下二^用 | サ変^用 | ラ四^用 | ハ下二^用 | サ下二^用 | ラ四^用 | 過去
その煙いまだ雲のなかへ^㉞立ち上るとぞ^㉟言ひ伝へ^ツたる。
ラ四^終 | ハ下二^用 | 存続